



すべての子どもたちの応援団として

辻 佳宏〔高松市 PTA 連絡協議会 会長〕

はじまりは我が子、気が付くとわたしたちの子どもたちへ

数年前の春、我が子を通う小学校の P T A 役員さんが P T A 卒業時に印象的なスピーチをされました。

「わたしの子どもが学校でどんなふう to 過ごしているか見てみたい。そして、わたしの子どもの教育環境が少しでも良くなればと P T A 活動をはじめました。広報部は学校に出向くことが多く、運動会をはじめ、いろいろな学校行事に参加して写真を撮りました。不思議なことに、たくさんの子どもの笑顔やイキイキとした姿を撮影しているうちに、学校にいるすべての子どもたちがわたしの子どもに思えてきました。わたしの子どもというよりも、わたしたちの子どもたちですね。みんなみんな元気に笑っていてほしい。そんな環境にいるわたしの子ども、きっと元気に笑ってられるはず。はじまりは我が子、気が付くとわたしたちの子どもたちに。みんな元気に成長してほしい……。」

わたしたち P T A は、すべての子どもたちのために活動する「子どもたちの応援団」であり、任意の社会教育団体です。その加入や活動は決して強制されるものではありません。

時代の変化とともに P T A を取り巻く環境も大きく変わり、これまであたりまえとされていたことがあたりまえではなくなりました。守るべきものは守り、変えるべきものは変える。P T A 過渡期ともいえる今だからこそ、わたしたちは「子どもたちの応援団」として保護者間で学び合い、子どもの安全安心を守り、より豊かに成長できる教育環境をつくること、そして家庭・学校・地域の潤滑油となることを目指し「みんな元気に成長してほしい」という強い願いをもち、活動し続けることが、以前にも増して必要とされています。

そのために、わたしたち大人が、互いを認め、理解し、言葉を交わし、感謝をもって子育て期間という尊い時間を、楽しい瞬間をみんな笑顔で共有していくことが大切です。

わたしたちの役割とは

多様性社会といわれるなか、さまざまな価値観が生まれ尊重され、また、これまであたりまえとされてきた仕組みや制度の疲労と限界が垣間見えています。現在、学校においては先生方の働き方をめぐる変革期にあり、地域においては人口減少・少子超高齢化、財政難とさまざまな課題をかかえています。課題に取り組むなかで、分断と孤立が生まれてはいけません。ましてや子どもたちにあらゆるしわ寄せがくることがあってはなりません。

わたしたちは微力です。すべてを解決することはできません。ですが、声なき善意を丁寧にひろいあげ、あわてずゆっくりでいい、ひとりでも多く「子どもたちの応援団」を増やすこと、ひとつひとつの小さな力を子どもたちのために発揮することを大切に笑顔で活動しています。そして、P T A の役割をはたすべく奮闘しております。

では、わたしたちPTAの役割とはなんでしょうか。

わたしたちPTAにはさまざまな役割があります。

- ◆保護者同士がつながり学び合う場をつくる。ときには相談窓口になることも。
- ◆学校と協議し、サポートすることで子どもたちのより良い教育環境をつくる。
- ◆子どもたちに学校だけでは学べない学びや体験の場を提供する。
- ◆子どもに関わる地域の人たちを増やす場所をつくる。
- ◆地域・学校・家庭の三位一体が弱まるなか、その潤滑油となり、ゆるやかにつなげる。

言葉にすると仰々しく感じますが、普段の活動は概ねこのようなことにつながっています。PTA活動をとおして、多くの人との出会いがあり、この、人と人との出会いもPTAにとって大切だと感じています。親として、大人として、まだまだ未熟な私たち。たくさんの人と関わりを持つことで、子育てにも親育ちにもプラスになります。

子育て期間という限られた時間のなかで、子育てや教育に関わり、子どもたちと共に歩む。子どもたちの豊かな成長を願い、理念と目的を共有する。保護者同士、保護者と教員が学び合い、つながり、信頼関係を築く、感謝をもって話し合う。そしてとびっきりの笑顔で活動を続けることで、自分自身や子どもたちに前向きな変化が生まれ、地域社会にもより良い影響を与えるはずです。

時代の変化と共にPTAも大きく変わりましたが、いつの時代もカタチは変われども「子どもたちを支え、応援する大人集団」は必要です。

「ちょっとやってみようかな」

「手伝うよ～」

というみなさまの声を大切に、期間限定の特別な権利であること、そして、その楽しさが伝わるように邁進してまいります。

大人が笑顔であること、そのなかで子どもたちは安心して成長できます。そして、親としても人としても共に成長していきましょう！

PTA 活動のさまざまなメリット！

- ◆子育て・子どもの教育の幅が広がる（多くの事例を見聞き、親同士の学び合い）
- ◆我が子や子どもたちへの理解が深まる（多くの事例とともに体験）
- ◆学校に行ける（普段行くことがなく敷居が高いと感じる人も）
- ◆学校教育を知る、参画できる（主にキャリア教育や体験型学習など）
- ◆先生方との親交が深まる（相談しやすく情報量も増える）
- ◆視野が広がる、対人能力が高まる（多様性を身に付けるなど）
- ◆知人・友人が増える（子育て仲間、地域の仲間）
- ◆居場所が増える（サードプレイス（自宅や学校・職場でもない第三の居場所）は人生を豊かにする）
- ◆そして、とにかく楽しい（PTA は大人の部活動）

（NPO 法人ファザーリングジャパン 理事 川島高之様の講演資料参照）

